

主張

平成30年9

月2日、津市・

ホテルグリーン

パーク津におい

て第14回三重

県保険医協会医療研究

フォーラムが開催された。

17の演題が報告され30人

の参加があった。

高齢者の心肺疾患

の緊急症例、認知症

が治って驚いた症例、

整形外科における認

知症、疥癬タニシ症例と

ワーファリン使用の工

夫、COPDに対する

外来での呼吸器リハビリ

テーション、副鼻腔炎と咳

への漢方薬の効果、高齢者

の垂鉛不足症、病院での無

料低額診療事業と手遅れ

死亡例調査結果、三重県

保険医協会の歩みを振り

返った歴史の報告、薬剤関

連類骨壊死の現状と対処、

かかりつけ歯科医として貴

重な経験症例、三重県保

険医協会が行った学校歯

科検診後の治療実態調査

の三重県での現状、インプ

ラント治療の長期経過報

告、青山高原の風力発電

が不足気味であった。

各報告は医科、歯科を

通じて偏りもなく、日頃の

診療での珍しい症例や検

討があった。特記すべきは

元会長眞鈴川寛先生の三

重協会の歴史の発表で

あった。また、環境問題に

閉会後に行われた意見

交流懇親会ではホテルの

料理もよく、よい雰囲気で

意見交換ができた。協会

への要望や今後に対する

貴重な意見、近い将来の

役員の勧誘など貴重な懇

親の場であった。

までは惜しいとしてこの会

を翌年から取り組んだ。

最初のころは発表者を募

るのに苦労した。第14回

の今年は参加者が固定し

た感があるが、安定した成

果が得られつつある。

いまひとつ飛躍を求めた

い。会長の宮崎智徳

先生は医療研究に熱

心な志の方である。

三重協会の保団連理

事嶋銅伸先生は保団

連研究部部长である。

この時期に保団連医

療研究フォーラムの主

務地を三重協会が再度引

き受けた。来年の第15

回三重県保険医協会医療

研究フォーラムから準備に

着手する必要がある。協

会役員全体の一致団結し

た意欲を盛り上げていか

なければならぬ。

第14回三重県保険医協会 医療研究フォーラムを終えて

による自然景観の危機、高
校生の夏のセミナーの体験、
弁護士からの医療クレイ
マー保険の紹介、認知症疾
患医療センター連携型の半
年間の歩み等の発表があっ
た。各報告に対して活発
な質疑応答があり、時間

についても報告があり、多方
面から興味深い報告がな
されて充実した時間であっ
た。会の進行もトラブルも
なく順調であった。この点
に関しては、裏方で努力さ
れた事務局の人たちに感
謝の意を表する。

この三重県保険医協会
医療研究フォーラムは、15
年前に三重協会が保団連
医療研究フォーラムの主務
地を引き受け、当時の役
員全体が結集してこれに
当たり大いなる成果を上
げたことに始まる。このま